

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通しての研究～

I 研究テーマについて

今年度も昨年度と同じように，“思考力・判断力・表現力の育成”に重点を置き，どのような育成方法があるのかを研究してきた。今年度も「読むこと」における指導の工夫について取り上げて（昨年度は「説明的文章の読解」であったが，今年度は「詩の学習」），研究を進めてきた。「詩の学習」における“思考力・判断力・表現力の育成”とはどのようなものなのかを研究して検証してきた。

II 研究の内容

1 学習会

「思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導」～言語活動の充実を通して～

○詩における学習の指導と新学習指導要領について

講師 山梨県教育委員会義務教育課 主幹・指導主事 重田 誠 先生

- (1) 講演 ・詩の学習における思考力・判断力・表現力を育む指導
・全国学力学習状況調査を踏まえた詩の読み方
・新学習指導要領改訂の趣旨及び要点 等
- (2) 質疑

2 授業研究

- (1) 教材名「詩を楽しもう わたしと小鳥とすずと/山のでっぺん」（光村図書）
山梨小学校3年担任 渡邊 麻衣子 教諭

(2) 単元の目標

【読むこと】◎詩のそれぞれの連の内容とその関係を理解し，音読している。

◎音読の発表を聞いて，感想を交流することで，互いの感じ方や考え方の違いに気づいている。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

友だちの発表を聞いて思ったことや考えたことを適切な言葉で表している。

(3) 成果と課題

ア 詩の音読の工夫

…音読する時間を多く確保し，個人で練習したり，ペアで練習したりすることで，繰り返し音読をしていく必要がある。 (表現力の育成)

イ 伝える相手を考えた読み方の指導

…誰に伝えるのかを考え、相手を想定して練習をしていくことで表現力が向上していく。
(思考力・判断力・表現力の育成)

ウ 音声指導の工夫

…強弱、間の空け方、気持ちを込めて読むなど、詩の読み方を教えておくことで、表現力を向上させていく必要がある。

(思考力・表現力の育成)

3 実践交流

「思考力・判断力・表現力を高める指導」について、各人が一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。質疑応答の時間をとることで互いの問題意識を共有することができた。

4 小中合同授業研究

(1) 単元名 「主張と根拠のつながりが明確な作文を書こう」

山梨北中学校 3年 糠信 恵理香 教諭

(2) 単元の目標

【書くこと】◎主張と根拠のつながりを明確にし、説得力のある文章を書くことができる。

(3) 成果と課題

- ア 書くことに対して抵抗感のある子がいなく、みんな文章を書くことができた。
- イ グループの中で、観点に沿って作文を相互評価させることで、友だちの作文の良い点・改善点などをしっかりと伝えることができていた。
- ウ 少人数グループであったので、相互評価する際には、グループの人数分作文のコピーを用意しておくべきであった。
- エ 書く力に個人差があったので、何人かの生徒が書いた作文をモデルにして、何がよいところなのかを観点に沿って全体で共有することも大切である。

Ⅲ 成果と課題

- 詩の学習や作文指導など、新たな視点から“思考力・判断力・表現力の育成”について考えることができた1年間の研究であった。
- 授業研究を通して、グループでの話し合い・相互評価などすることで、児童・生徒の間で様々な意見を交わすことができ、一人ひとりの“思考力・判断力・表現力の育成”につながる事が分かった。
- 一人一実践でそれぞれの実践を交流することで、様々な学年の指導方法、単元の進め方について共有することができたが、もう少し人数が増えるとより多くの実践を交流することができる。
(部長 橋本 耀太)